

# 短歌 技法 ①

年 組 名前 ( )

短歌に使われる①～⑩の技法を意味・例を参考にして書き入れなさい。

意味

例

① 隠喩

↓

たとえるときに「ように」「ようだ」などを用いない。

例

ガラスの心

② 倒置法

↓

語順を逆にして意味を強める。

勉強する、国語を。

③ 直喩

↓

「たとえるときに」 「ようだ」 などをを用いる。

②① 目覚めるように 雲のようだ

④ 字足らず

↓

基本の音数より少なくする。

雲のようだ(六音)が 結句(最期の句)だとすると、七音なので一字足りない。

⑤ 五・七・七・五

↓

短歌の基本形式。三十一音をこの順に並べる。

五句三十一音が基本 始めが「初句」(しよく) 終わりが「結句」(けつく)

⑥ 体言止め

↓

文の最期を体言で終わらせることで、感動を強める。

②① 秋の夕暮れ 青いハンカチ

⑦ 擬人法

↓

人でないものを人にとえて表現する技法。

②① 空がほほえむ 大地がどよめく

⑧ 対句

↓

似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

②① 山は大きく、人は小さい。 青い空、白い雲

⑨ 字余り

↓

基本の音数より多くする。

大地がどよめく(八音)が、 結句(最期の句)だとすると、七音なので一字余る。

⑩ 反復法

↓

同じ言葉を繰り返すことで、強調したり、リズム感を生み出す。

②① ゆっくりと ゆっくりと 右に右に右に

10点×10 / 100 得点

## 短歌 技法②

年 組 名前 ( )

10点×10

短歌に使われる技法と、意味の組み合わせが正しくなるよう  
カツコにアコを書き入れなさい。

意味

ア 倒置法

(ウ) 似た構成の言葉を並べ、リズムをつくる。

イ 擬人法

(ケ) たとえるときに「ように」「ようだ」などを用いない。

ウ 対句

(コ) 短歌の基本形式。  
三十一音をこの順に並べる。

エ 字余り

(オ) 同じ言葉を繰り返すことで、強調したり、リズム感を生み出す。

オ 反復法

(エ) 基本の音数より多くする。

カ 体言止め

(キ) たとえるときに「ように」「ようだ」などを用いる。

キ 直喩

(イ) 人でないものを人にたとえて表現する技法。

ク 字足らず

(ク) 基本の音数より少なくする。

ケ 隠喩

(ア) 語順を逆にして意味を強める。

コ 五・七・七・五

(カ) 文の最期を体言で終わらせることで、感動を強める。

得点 /100

# 短歌 技法 ③

年 組 名前 ( )

10点×10

短歌に使われる技法と、例の組み合わせが正しくなるよう  
カツコにアコを書き入れなさい。

例

ア 倒置法

(キ) まるで雲のようだ。

イ 擬人法

(エ) 結句（最期の句）を8音にする。

ウ 対句

(イ) 太陽が吠える。

エ 字余り

(ア) カバンに入れる、教科書を。

オ 反復法

(オ) 走る、走る、走る。

カ 体言止め

(コ) 三十一音が短歌の基本形式。

キ 直喩

(ク) 結句（最期の句）を6音にする。

ク 字足らず

(ケ) ガラスの心

ケ 隠喩

(カ) 忘れはしない夏の青空。

コ 五・七・七・五

(ウ) 夜は寒く、昼は暖かい。

得点 /100